様式第３号

令和２年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	1	学 校 名	静岡県立下田高等学校（分校）	校 長 名	齊藤　篤

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	すべてに優先する安心安全な学校作り	○登下校時の交通事故０件 ○いじめアンケート年３回・重大事案発生０件 ○教職員の不祥事０件、長期欠席０人	○登下校時の交通事故０件 ○いじめアンケート年３回実施重大事態０件 ○教職員の不祥事０件、長期欠席０人	A	○交通事故は０件であった。自転車マナーのさらなる向上を図りたい。 ○今後もいじめに関して組織で取り組みたい。 ○生徒個々や人間関係上の問題は発生したが、担任を中心に関係職員で早期に対応し、重大な問題に発展することを防ぐことができた。今後も迅速な対応を継続していく。
		○防災訓練年間２回を軸とした自助・共助体制の確立	○防災訓練年間２回実施	A	○防災訓練は、地震想定１回、火災想定１回実施した。今後は、学校周辺状況を踏まえた防災訓練の改善を図る。
イ	**基本的生活習慣を確立させ、自立心を持った生徒を育てる生活指導の充実**	○登校指導と職員室入室時指導の実施	○登校指導、職員室入室指導実施	A	○登校指導等を通じて挨拶・言葉遣いなど適切な対応ができるようになった。
		○コミュニケーション能力向上プログラムをLHR等で年５回以上の実施	○各学年、年３から４回程度のプログラムを実施	B	○新型コロナウイルスの感染症対策の影響でLHRを予定通り実施することができなかった。
		○年間を通した言葉遣い、服装・礼節など全般的なモラル・マナーの指導 ○授業を大切にし、学習習慣を身につけ、提出物の期限を尊守する生徒70%以上 ○長欠・不登校０とし、出席率98%以上	○学校生活全体を通じてマナー・モラルの指導の実施 ○多くの生徒は、授業に臨む姿勢が前向きであった。提出物の期限を遵守する生徒は70%程度 ○長欠傾向の生徒はいるものの不登校にはならず出席率 98%は達成	B	○服装など身だしなみに関して指導が不十分であった。さらなるマナー・モラルの向上を図りたい。 ○生徒の実態にあった教科指導の工夫が授業に臨む姿勢を前向きにさせている。今後も、授業改善を重ね、多くの生徒が前向きに授業に取り組めるよう研修等を継続していく。提出物を期日までに出すよう口頭での指導や板書による提示などをしているが、向上には至らないため特別な支援が必要と考える。 ○担任から体調管理の指導や家庭への協力を積極的に呼びかけているため出席率は保たれている。今後は遅刻に対する指導に力を入れていく。

様式第３号

		○読書会を年１回実施 ○図書室の機能向上と貸出数 80 冊	○読書会は未実施 ○図書室の整備を進め、貸出数も 100 冊を超る	B	○図書室の、学習室としての機能を充実させることができた。 ○生徒の積極的な活用を促すことが課題である。
ウ	**地域の特性を生かし、農業の多面性を活用した学習の展開**	○地域機関や人材との連携を 20 回以上	○各授業単位で達成	A	○課題研究を中心に、広く地域の機関と連携できた。今後は、活動内容により連携対象を精選、新たに開拓する等、マンネリ化を防いでいく。
		○全国大会（静岡）の運営成功 ○県大会（意見・プロジェクト）各３部門出場、入賞２件以上	○全国大会は中止。 ○プロジェクト県大会３部門出場。入賞１部門	B	○全国大会中止後、自然と活動が止まっていった感がある。 ○プロジェクト県大会に向け、６本の研究活動を実施できた。今後も３部門出場を継続していく。
		○ＥＳＤの趣旨を踏まえた、授業の実施	各課題研究を通じて、関連する内容に触れた。	A	課題研究については、基本、地域の課題や外部との連携が中心となる活動が展開できた。・入念な活動計画を立て、やり残し等のない実施を図る。
		○令和４年度教育課程の作成とシラバスの改善 **○学びの基礎診断の実施と検証** ○ＧＡＰ教育を踏まえた農場整備の実施と実習形態（作付け面積等）の見直し	○教育課程検討委員会を重ね、課題の共有をしながら新たな教育課程を作成 ○国語・数学については、学びの基礎診断となるような試験を実施 ○新教育課程の作成を通して、現状の課題を見直し ○ｶｰﾈｰｼｮﾝ栽培にて県認証取得	B	○教育課程作成の上で、現状の課題と今後の課題について考え、多くの意見が反映された教育課程が作成された。今後、評価規準やシラバスについての検討が必要である。 ○学びの基礎診断では、本校生徒の課題である基礎学力定着に見合う教材が選定された。今後、基礎学力テストとの兼ね合いを考慮しながら実施方法の検討が必要である。 ○科職員全体で、現状の学習過程の見直し、意識変化を図った。県認証取得により具体的な農場整備等が進んだ。認証取得後の諸条件（施設利用、販売方法等）整備が課題である。
エ	積極的な地域貢献	○地域防災訓練参加率 50%以上	○全校生徒のうち 45%が参加	B	○コロナ禍ではあるが 45%が参加。次年度は 50%以上の参加を目指したい。
		○生徒がｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、職場見学を通して、地元企業・産業への理解を深める。 ○生徒の主体的な地域貢献交流参加１回以上	○ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟは中止、１、２年生で職場見学を実施 ○生徒の主体的な地域貢献交流はコロナ禍でほぼ未実施	B	○インターンシップは県内コロナ感染状況に対応し、安全に留意して実施していきたい。実施時期、学年等の検討が必要である。 ○授業外での地域貢献交流について、生徒への情報提供や意識喚起の方法を検討する必要がある。
オ	個に応じた丁寧な進路指導	○年度末までに進路の方向性を決める生徒（１年 60・２年 80・３年 100%）	○１、３年生は目標を達成	B	○新３年生に、コロナの影響をふまえて進路を考えるように指導をしていきたい。

様式第３号

		○学期毎の面談と生徒情報の教員間共有 ○基礎学力テストの実施と検証のため研修・アンケートの実施	○学期毎に面談を実施、生徒の情報共有を実施 ○生徒情報の教員間共有 ○基礎学力テストを年３回（3年生は2回）実施（分析・検証には至っていない。）	A	○生徒の面談、情報共有を行うことで個に応じた丁寧な指導ができた。 ○職員会議やその他の必要な場面で、生徒情報共有を行うことができた。今後も継続する。 ○学習習慣定着への取り組みとして一定の成果はあると考えられるが、意識差はある。学校独自の問題だが、ある程度の指標（検定・資格）を示す必要があり、今後検討が必要である。
		○法人会、企業等と連携した、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、職場見学の実施	○インターンシップは実施できなかった。	B	○県内のコロナウイルスの感染状況に左右される面があるが、安全に留意して実施していきたい。
カ	教育活動の地域への積極的情報発信	○分校だよりを年間10回発行 ○ホームページの日記更新年間50回	○分校だよりは年間10回発行 ○ホームページは50回更新	B	○分校だよりは目標回数の発行を達成した。行事が削減された１年であった。 ○次年度は、生徒の活動を多く取り入れたホームページの質を充実させる。
キ	学校の組織力を高めると共に、教職員の資質能力向上の推進	○チーム研修を年間３回 ○職員会議等を利用したミニ研修年間８回	○授業改善や新教育課程のチーム研修を合わせて５回以上実施 ○研修たより週二回発行	A	○チーム研修を定期的に行うことで、現状を理解することや意識の改善につなげることができ、同僚性から具体に多くを学ぶことができた。今後は内容を精査しながらも継続的に実施していく必要がある。
ク	働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	○夏季休暇以外に年休３日以上の取得者 80%以上	○教職員が年休を３日以上取得	A	○必要に応じて年休を取得しやすい雰囲気作りができた。今後は会議の精選や短縮化を進めていく。
		○充実改善要望の実現５件	○検討会 1 回実施、要望５件実現	A	○今年度の未実施は、現在進行形も含め、次年度への継続実現を目指す。
ケ	教育目標達成のための適切な財務執行	○経営予算の 12 月末までの執行率を 60%以上 ○小規模修繕費の 12 月末までの執行率を 60%以上 ○施設設備の不備による事故が０件 ○情報流出０件	○経営予算の執行率 55% ○小規模修繕の執行率 48% ○施設設備の不備による事故０件 ○情報流出は0件	B	○新型コロナウイルスの影響で、学校行事の開催・時期等に変更が必要で、普通旅費の予算執行が計画通りにいかなかった。 ○小規模修繕については修繕箇所が多く、予算の関係で未執行の箇所があるが、早急に対応するよう努める。